

山形労働局

【公的職業訓練効果の把握・検証結果について】

公的職業訓練効果検証ワーキンググループ実施要領

1 目的

公的職業訓練効果検証ワーキンググループ（以下「WG」という。）は、適切かつ効果的な職業訓練を実施していくため、個別の訓練コースについて、訓練修了者や採用企業からのヒアリングも含め、訓練効果を把握・検証し、訓練カリキュラム等の改善を図ることとする。

2 WGの構成員

「山形県地域職業能力開発促進協議会設置要綱策定要領」の1（3）の構成員のうち、都道府県労働局、都道府県及び独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構とし、必要に応じて、地域職業能力開発促進協議会（以下「協議会」という。）構成員の中から任意の者を追加する。

なお、協議会の構成員として委任した者と同じのものとする必要はなく、構成員の機関・団体の職員等で差し支えないが、協議会の事務に従事する者として、正当な理由なく、協議会の事務に関して知り得た秘密を漏らしてはならない。

3 検証手法

検証手法は、公的職業訓練の訓練修了者、訓練修了者の採用企業及び訓練実施機関に対するヒアリングにより行うものとする。

なお、各種データの統計処理による分析については、訓練カリキュラムの改善に資する場合に限り各協議会で実施することも可能であるが、都道府県労働局職員以外の者が直接関わって分析を実施する場合は、①分析するデータの種類・範囲、②分析手法、③分析の実施者等を明らかな上で、事前に、本省に協議すること。

4 WGの具体的な進め方

(1) 検証対象コースの選定

ア 予め協議会にて検証対象となる訓練分野を選定しておき、WGでは当該訓練分野の中で訓練修了者が比較的多い訓練コースを3コース（ただし、異なる訓練実施機関が実施するものとする。）以上選定する。

イ 検証対象は、アで選定したコースの訓練実施機関と、各訓練コースにつき訓練修了者1人以上、当該訓練修了者を採用した採用企業1社以上とする。具体的には、3コースを選定すると、訓練実施機関3者、訓練修了者3人以上及び採用企業3社以上が対象となる。

なお、ヒアリングの対象とする訓練修了者の選定にあたっては、同一の性別又は年齢層に偏らないよう配慮すること。

その他、就職氷河期世代、就職困難者、ひとり親等といった様々な事情を抱える方々について検証することも有意義であることから、訓練修了者のうちの一人は、例えば離職期間が長い、離転職を繰り返している等の履歴のある者をできる限り選定することが望ましい。

(2) ヒアリングの内容等

ア ヒアリングは直接又は web 会議のいずれでも差し支えない。

イ ヒアリング内容は以下の項目を必須とし、協議会独自に質問項目を追加しても差し支えない。

① 訓練実施機関へのヒアリング

- ・ 訓練実施にあたって工夫している点
- ・ 訓練実施機関が行っているキャリアコンサルティングの状況
- ・ 訓練実施にあたっての国への要望、改善して欲しい点

② 訓練修了者へのヒアリング

※訓練機関の待遇など、受講中の満足度ではないことに留意。

- ・ 訓練内容のうち、就職後に役に立ったもの
- ・ 訓練内容のうち、就職後にあまり活用されなかったもの
- ・ 就職後に感じた、訓練で学んでおくべきであったスキル、技能等

③ 訓練修了者を採用した企業へのヒアリング

- ・ 訓練により得られたスキル、技能等のうち、採用後に役に立っているもの
- ・ 訓練において、より一層習得しておくことが望ましいスキル、技能等
- ・ 訓練修了者の採用について、未受講者（未経験者）の採用の場合と比較して期待していること（同程度の経験等を有する者同士を比較。採用事例がない場合は想定）

(3) ヒアリングを踏まえた効果検証等

(2) のヒアリングを踏まえ、調査した訓練コースを含む分野全体において、訓練効果が期待できる内容及び訓練効果を上げるために改善すべき内容について整理する。

(4) 効果検証結果を踏まえた検討

(3) の効果検証結果を踏まえ、訓練カリキュラム等の改善促進策（案）等を検討し、協議会への報告事項を整理する。

【訓練カリキュラムの改善促進策（例）】

- 委託訓練について、
 - ・ 説明会資料又は委託要綱等の内容に追加
 - ・ 公募条件又は入札の加点要素として付加
- 汎用性の高い訓練（就職支援）内容について、
 - ・ 求職者支援訓練において、訓練実施期間中に独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構が行う実施状況の確認の際に周知
 - ・ 申請・認定事務の際に周知
 - ・ 求職者支援訓練の実施機関開拓の際に周知

(5) 協議会への報告

WG の効果検証結果及び訓練カリキュラムの改善促進策（案）等については協議会に報告する。

ヒアリング対象の訓練分野

デジタル人材の質・量が不足しているなか、求職者支援訓練、委託訓練とも応募倍率が高く、就職率が低いデジタル分野（IT分野・デザイン分野）について、就職率の向上を図るため3コースを選定し、訓練効果を把握・検証の対象とした。

情報収集（ヒアリング）実施状況

- ヒアリング実施時期 令和6年8月～10月
- ヒアリング実施者 山形県、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構山形支部、ハローワーク、山形労働局
- ヒアリング先
 - ①職業訓練実施機関 3機関（中小企業）
 - 公共職業訓練（委託訓練） 1機関・・・村山地方
 - 求職者支援訓練 2機関・・・村山地方、庄内地方
 - ②職業訓練受講者採用企業 4社（中小企業等）・・・山形県内
 - ③職業訓練修了後就職した者 3名（②に就職した者含む）
- ヒアリング対象訓練カリキュラム （下記3コース）

検証対象訓練カリキュラム

〔Java・Pythonプログラミング科（eラーニング）〕

カリキュラム		時間
安全衛生	VDT作業と安全衛生	2H
就職支援	履歴書・職務経歴書作成指導、ジョブカード作成指導、面接指導	12H
プログラミング概論	コンピューターの仕組み、プログラム動作環境、情報表現形式	6H
Java概論	Javaプログラミング言語の基礎	17H
Python概論	Pythonプログラミング言語の基礎	17H
HTML演習	HTML言語を中心にウェブアプリケーション画面の制作の基本手法	21H
Javaプログラミング演習	Java言語での開発に使われる開発環境を構築、変数の扱い・プログラミングでの計算処理(演算子)や正誤判定、条件分岐・メソッドおよびプログラムの構を設計、作成・条件分岐などのプログラミングの基礎を統合した問題演習	76H
Javaオブジェクト指向演習	・オブジェクト指向の基礎、クラス、インスタンス・クラス、API、リファレンスの参照、ファイル構成と「継承」の概念	60H
Javaクラスライブラリ演習	・インターフェイス、オブジェクト指向を考えた問題演習・データのまとりの扱い方(コレクション)や外部データの利用や出力・Javaにおけるスレッド処理や同期化	55H
Javaアプリケーション演習	・サーブレットとJSPを使ったWebアプリケーションの作成・Webアプリケーションとデータベースとの連携・Javaアプリケーションの開発	63H
Pythonプログラミング演習	・エミュレータやデバッグツールアプリを開発する為の環境構築・見た目の作成や構成、簡単なデータ保存についての演習・SQL文を使ったデータベースの利用と外部ファイルの保存、出力演習	59H
疑似ミーティング演習	・実務に即した疑似ミーティング演習 ・仕様作成、設計演習	38H
アプリケーション演習	・作成したアプリに誤作動がないか調査、修正 ・作成したアプリのプレゼンテーション	51H
職業人講和	・「情報セキュリティの基本的な心構えについて」(4H) ・「IT業界の動向と就職について」(4H)	8H
合計		493H

〔マクロも学べるExcel VBAプログラミング科〕

カリキュラム		時間
サイト構築概論	Web及びIT技術の概要、サイト分析における各種ツール、著作物の保護、守秘義務など	6H
サイトデザイン	ターゲットとデザインの関係、基本デザイン、最新のデザイン動向など	6H
Webコンテンツ	Webコンテンツの種類、各コンテンツと編集ソフト、Webライティング、SEO対策など	6H
イラスト作成	制作環境の導入と基本設定、新規イラストの作成、既存イラストの加工・編集など	24H
フォトデータ加工	制作環境の導入と基本設定、既存データの加工・編集など	24H
HTML/CSSコーディング	HTMLコーディング、CSSコーディング、Web標準に準拠したコーディングなど	45H
JavaScript基礎	JavaScriptプログラミング、動的コンテンツ制作環境の導入と基本設定、動画コンテンツの作成・編集など	60H
Webサイト制作実習	テーマ選定とターゲット検討、企画検討、企画における利用技術の選定、デザイン検討、レイアウトの検討、フォントの選定、ターゲットとデザインの適正確認など	59H
CMS実習	PHP実行環境の作成、PHPにおける変数・関数・配列・条件分岐・ループ処理、MySQLデータベース作成、WordPressインストール、WordPressの使い方	80H
Webライティング実習	「リード」の作成、「略歴」の作成、「サイト紹介」の作成、SEOライティングなど	81H
就職支援他	応募書類の書き方、面接の受け方、ビジネスマナー(接遇)、コミュニケーションなど	38H
合計		304H

〔WEBコンテンツ科〕

カリキュラム		時間
サイト構築概論	Web及びIT技術の概要、サイト分析における各種ツール、著作物の保護、守秘義務など	6H
サイトデザイン	ターゲットとデザインの関係、基本デザイン、最新のデザイン動向など	6H
Webコンテンツ	Webコンテンツの種類、各コンテンツと編集ソフト、Webライティング、SEO対策など	6H
イラスト作成	制作環境の導入と基本設定、新規イラストの作成、既存イラストの加工・編集など	24H
フォトデータ加工	制作環境の導入と基本設定、既存データの加工・編集など	24H
HTML/CSSコーディング	HTMLコーディング、CSSコーディング、Web標準に準拠したコーディングなど	45H
JavaScript基礎	JavaScriptプログラミング、動的コンテンツ制作環境の導入と基本設定、動画コンテンツの作成・編集など	60H
Webサイト制作実習	テーマ選定とターゲット検討、企画検討、企画における利用技術の選定、デザイン検討、レイアウトの検討、フォントの選定、ターゲットとデザインの適正確認など	59H
CMS実習	PHP実行環境の作成、PHPにおける変数・関数・配列・条件分岐・ループ処理、MySQLデータベース作成、WordPressインストール、WordPressの使い方	80H
Webライティング実習	「リード」の作成、「略歴」の作成、「サイト紹介」の作成、SEOライティングなど	81H
就職支援他	応募書類の書き方、面接の受け方、ビジネスマナー(接遇)、コミュニケーションなど	38H
合計		429H

○各訓練の就職率（訓練終了後3か月後の雇用保険資格取得者／修了者＋就職中退者）
【IT・デジタルPC関連就職者】

〔Java・Python[®]プログラミング科（eラーニング）〕
修了者等 30名 雇用保険加入者 12名
就職率 44%【3人】

〔マクロも学べるExcel VBA[®]プログラミング科〕
修了者等 9名 雇用保険加入者 4名
就職率 44%【3人】

〔WEBコンテンツ科〕
修了者等 15名 雇用保険加入者 10名
就職率 66%【2人】

ヒアリング実施結果概要① (職業訓練実施機関)

【質問】

訓練実施にあたって工夫している点
(カリキュラム設定等)

- 自社にWEB事業部門があるため、業務現場で求められるスキル、人材は理解しており、また、顧客（発注元）から必要とされる企業ニーズを把握し、カリキュラムに反映・作成している。
- 企業内の業務効率化がどのくらい従業員に求められているのか、企業サイドから聴取。システム作成や表計算の演習カリキュラムを増やしている。
- IT業界では依然としてJava案件が多いためカリキュラムを増やした。

【検討課題等】

各機関とも企業ニーズ等の把握に努め、カリキュラムに反映している。

訓練実施にあたって工夫している点
(受講者のレベル把握について講義の進め方等)

- 選考会面接時に全受講希望者に対しスキルを聴取し、レベルを把握。
- カリキュラムの進捗に影響するためタイピングテストを実施。入カスキルを確認している。
- 個々の習得度に応じて、個別対応でサポートを行っている。
- レベルの低い受講者のため、基本的内容も取り扱うよう留意している。
- いつでも質問可能な共用の質問表を作成し、他受講者の質問を参考に解決出来る環境を整備した。

各機関とも受講者のレベル把握に努めるも、講義の進め方に苦慮しており、講義の進め方に課題はないか。①
訓練希望の求職者への情報提供は適切か。②

キャリアコンサルティングの状況

- 時間以外の相談体制を設け、講師による応募書類の作成や面接の相談等、就職活動のサポートを実施。
- WEBデザイン業界は資格より経験年数を重視する傾向にあり、まずは関連職種でHP制作・運用等で経験を積んだ後にWEBデザイン関係企業を目指すことも薦めている。

キャリアコンについては各施設とも、相談のしやすさなどに工夫をしている。

ヒアリング実施結果概要① (職業訓練実施機関)

実施にあたって国への要望、改善してほしい点

- 委託費が安い。Excel系と専門性があり教材費がかかるIT系が同じ委託費では厳しい。
- 訓練コストは上昇しており、奨励金の改善をお願いしたい。
- 物価高により光熱費、プリント代等が高騰しており、奨励金の改善をお願いしたい。
- 資格取得の受験料は金銭的負担が多くなることも課題の一つ。

委託費・奨励金等の増額。④

資格取得の受験料について助成制度を要望。⑤

その他
(就職率の向上等)

- 計画どおりのカリキュラム履修のため、来年度以降、受講者のレベルを把握するPC基礎知識を問うペーパーテストを実施予定。
- デジタル分野は難易度が高く、訓練期間中のモチベーションを保つため、マインドセットすることが肝要。
- 受講生同士のコミュニケーション、雰囲気作り、信頼関係の構築を重視している。
- データベースに関するカリキュラムの強化。
- 就職支援を毎週短時間で開催することにより、就職への意識付けを行っている。

各機関とも様々な工夫をしているが、就職率の向上を目指し、さらなる取り組みはないか。⑥

ヒアリング実施結果概要②（職業訓練受講者採用企業）

【質問】

訓練により得られたスキル、技能等のうち、採用後に役立っているもの

- 社内システムでVBAを使ったものが幅広くあるが、採用者はVBAの考え方や知識をよく知っており、即戦力として大変役立っている。
- CANVAのスキルを活かし、デジタルサイネージ用ポスターを作成する等、既に即戦力となっており、職業訓練のおかげでニーズに合った人材を採用できたと感じている。
- プログラマーとしての必要な知識（特にJava・Python）はカリキュラムに全てあり、役に立つものと思われる。

訓練において、より一層習得しておくことが望ましいスキル、技能等、または仕事で使用しないスキル等

- 総務経理課に配属され、総務業務では訓練で学んだVBAの知識が活かされている一方で、経理関係の業務では本人も苦戦しており、経理に関するスキルの知識・習得があればなお良かったと思う。
- 企業により求められるスキルは違うと思うが、Microsoft Accessの基礎知識はカリキュラムに含めてもよいのではないかと感じる。VBAでも対処可能であるが、基礎知識があればより業務に活かされるのではないか。
- ビジネスマナーやコミュニケーションスキル等、対人能力を重視しており、社会人の基礎知識を身につけるカリキュラムは必要だと感じている。

訓練受講者の採用について、未受講者（未経験者）の採用の場合と比較して期待していること。

- 今後、ホームページリニューアル時の担当として期待している。
- デジタル関連の業務は社内教育に時間がかかるため、教育に時間を割くことなく即戦力として業務に従事できるため大変期待している。
- 社員同士でコンピュータ業務について教え合いが出来る面についても役立つスキルであると考えている。
- 訓練を受講したこと自体をストロングポイントとしてポートフォリオを提出するなど、アピールできることが大切であると思う。

【検討課題等】

今回聴取した4社においては、即戦力としてスキルが活かされており、総じてスキルについて不足が無い。

今回聴取した内の2社において、訓練カリキュラムに関連した他職種（事務系）スキル習得を希望。他職種を想定したカリキュラム設定の必要性について課題はないか。①

また、3社より職場で必要とされるコミュニケーション能力向上を目的とした訓練カリキュラムの要望あり。③

ヒアリング実施結果概要③ (職業訓練受講者)

【質問】

【受講者からのご意見】

【検討課題等】

訓練内容のうち、就職後に役に立ったもの

- システム管理に従事しているため、訓練で学んだMOS Excelエキスパートや関数の計算は役立っていると感じている。
- VBAを学んだことでプログラミング言語が何を示しているのか理解ができ、業務に活かされている。
- イラスト作成、フォトデータ加工、就職支援、その他アプリ（特にCANVA講座とWord Press講座）は業務に活かされている。
- IT技術者として就労経験がなかったが、訓練受講でJava・Pythonの基礎知識を身につけたことで採用につながった。

就職者においても受講で身についた知識が役立っている。

訓練内容のうち、就職後にあまり活用されなかったもの

- 活用されなかったものは特になし。
- 活用されなかったものとして、①HTML/CSSコーディングは現職務の内容と異なるため、②Java Script基礎はWeb系の仕事をするのがあってもソフトを使用するため、一からプログラミングする機会はないと思われる。
- データベースの設計に従事しているなかで、直接的には使用しない・活用しないカリキュラムでも、間接的に全て役に立っていると感じている。

左記のあまり活用されなかったカリキュラム等について、必要性に課題はないか。①

就職後に感じた、訓練で学んでおくべきであったスキル、技能等

- 不足するスキルは得にない。
- Microsoft Accessの操作方法等の基礎知識を学ぶことができればより役に立ったのではないかと感じている。
- 事務や経理に活用できるスキルがあれば役に立った。（1人で複数の業務を兼任しているため）
- データベース言語であるSQLの知識。
- 資格試験対策の時間が足りなかったと感じる。資格取得をふまえたカリキュラムになっていればさらに良かった。
- コーディングの進度が速く（1日40ページ）ついていけなかった。また、講義時間が短く実習時間が長いため、内容理解が出来ないままの実習を減らし、講義を増やして欲しかった。 6

カリキュラム構成は適切か。①②

ヒアリング結果を踏まえた今後の対応について（案）

ヒアリング結果を踏まえて、今後、以下のような取組を行う予定。

<カリキュラム設定>

- ・入校者のレベルには差があり、入校後も理解度に差がついてしまいが、カリキュラム構成や授業の進め方に課題はないか。また、カリキュラムの内容、時間の割り振り及び訓練期間（時間）の設定は適切か。①
- ・訓練希望者に対して、訓練情報の詳細についての情報提供は適切か。②
- ・企画提案時に必須とする訓練もあるが、ビジネスマナー等、社会人の基礎知識を身につけるカリキュラムの設定または取組みを強化して実施する必要があるのではないか。③

<訓練機関からの要望>

- ・訓練コスト上昇に伴う委託費・奨励金等の増額。④
- ・資格取得に係る受験料等の助成制度。⑤

<就職率の向上>

- ・各機関とも様々な工夫をしているが、就職率の向上を目指し、さらなる取組みはないか。⑥

・IT・デジタル関連求人は、必要なPCスキルとしてプログラミング言語を必須とする企業が多いため、講義の中心となっているが、それ以外のカリキュラムについては企業の状況、求職者の目指す職種やキャリアプランなどにより変化する。

●受講者の年齢やレベルには差があり、訓練期間も含めて個人毎に合わせたカリキュラム構成等や、企業や求職者の希望職種等により、必要とするカリキュラムは異なるため、統一的なカリキュラム作成は困難。①

●求職者が自分のレベルを理解し、希望する職業に就職ができる訓練であることを見極めることができる、詳細な訓練情報を訓練説明会や募集チラシに盛り込んでいく。②

●企業によっては、専門的な分野の知識だけでなく、デジタル全般の知識やビジネスマナーの習得を求めているため、訓練内容に的確に反映させることも必要である。③

●コスト増加に伴う増額については、厚生労働省へ上申済。④（令和7年度概算予算要求で公共職業訓練（委託訓練）の知識等習得コース及び求職者支援訓練の委託費等の単価を1人当たり月3,000円引き上げ）

●助成制度については厚生労働省へ上申。⑤

●実施機関だけでは、就職率の向上を図ることは難しく、ハローワークとの連携は不可欠である。ハローワークで実施している「求職者担当者制」により訓練修了者への就職支援を推進していく。また、求人の確保も重要であり「訓練修了者歓迎求人」や関連職種の「未経験者歓迎求人」等の求人条件緩和の取組みを併せて推進していく。⑥